

ルルドの丘

2018
1月
No.40



社会福祉法人 聖母の騎士会

恵の聖母の家 医療型障害児入所施設・療養介護

児童発達支援センターめぐみ

相談支援事業所こころ

訪問看護あんな



▼「みことば」では聖書等の御言葉をお伝えします。 ▼「きらりん」では皆様の活動をお知らせします。



さあ、愛の行いをしにいきましょう。

尊者マルゲリタ・オッキエナ

☆きらりん☆

ハロウィンとスイーツバイキング

ランチバイキングを始めて7年になりました。毎年担当が工夫を凝らして各病棟ごとに企画し、今回は3病棟合同で行うことになりました。

まずは10月26日に経口摂取以外の方を中心にハロウィンをモチーフにした万華鏡とデコパージュ石鹸を制作しました。思い思いにハロウィンの仮装をして賑やかな雰囲気の中で秋の季節を感じてもらいました。万華鏡を作成した方はキラキラと目の前で動く色とりどりの飾りを見て楽しんでいました。デコパージュ石鹸作りの方は石鹸に貼る紙を選んだり、石鹸の香りを感じて不思議そうな表情を見せてくれました。今回はハロウィンやめぐみんのパネルで写真撮影も行いました。ご家族や支援学校の先生方も一緒に参加してくださり楽しいひとときを過ごすことができました。

11月9日にはカフェの雰囲気でスイーツバイキングを行いました。多数のメニューから自分で食べたいスイーツを選び、ご家族や支援者と一緒に楽しい時間を過ごすことを目的に行いました。栄養課の方が目の前でホットケーキを焼いて、甘い香りの中で出来上がる過程を大きなスクリーンで見ることができました。スイーツのメニューは、ネイチャークラブが収穫したさつま芋で作ったスイートポテト、杏仁豆腐、ようかん、プチシューです。またティラミス、イチゴのケーキ等、ひと口大のケーキの中から好きなものを選んでもらって、入所利用者も色々な味が楽しめてとても喜んでいました。いつにない笑顔やおいしそうなお表情を見ることが出来て支援者も嬉しくなりました。入所利用の方と日頃体験することのできない空間を味わいながら共有することができたと思います。

今回のバイキングはご家族、支援学校の先生方、訓練課そして栄養課の協力で無事に終わることが出来ました。ありがとうございました。

今年のバイキングもお楽しみに！



たくさんのスイーツが並びました

生活福祉課 保育士 加藤 昭子

(※スイーツバイキングについては7頁でも紹介しております)

巻頭言

施設長 佐藤 圭石

新年、あけましておめでとう
ございます。今年も、よろしく
お願いいたします。

今年も張り切って頑張りま
しょう！というスタートの時期
ですが、ここに来て、当施設の看
護師の離職が続いています。決
して、恵の聖母の家が、はやり
のブラック企業（苦笑）という
訳ではないと思うのですが、な
ぜでしょうか。

離職の理由として、離職希望
の職員さんからうかがえる範囲
で聴取したところでは、多いの
が体調不良でした。その内容で
すが、腰痛や、手指の変形でした。
当施設の入所利用者さんのほ
とんどが少しも歩くことができ
ず、中には寝たきりの人も少な
くありません。それらの人の日
常生活をベッドで過ごしてもら
うわけには当然いかず、食事や
入浴、療育活動などのため、ス
タッフは一日に何度も車いすに
移乗させたり、ベッドに戻した
り、畳の上に移動させたりと介
助しています。その時に、多く
は二人以上のスタッフで一人の
利用者を抱え上げ、ベッドや車

いすに移動させてはいます。ま
た、それ以外にも中腰で処置や
おむつ交換をすることも少なく
ありません。それらの結果、腰
痛を生じることもあり得ます。

もちろん、全てのスタッフがひ
どい腰痛になる訳ではなく、個
人で筋力を鍛える、腰痛ベルト
をするなど、予防に力を注いで
いるスタッフもいることではよ
う。しかし、全体の問題として
捉えなければ、せつかくスタッ
フを募集しても、続かずにつ
つかくの「人材」を失っていつ
てしまいます。

腰痛予防のために、まずは、腰
で抱え上げるのではなく、身体
全体を使う動作に配慮する、と
いう必要はあると思います。背
中を曲げるのではなく、脚を広
げて腰を落とし、背筋は伸ばす
やり方です。これにより、重心
を移動させ、身体全体を使って、
力を分散させることができます。

しかし、それだけではなく、
今注目されているのは、「抱え上
げない介護」と言われています。
つまり、福祉用具を使って持ち
上げ、移動させるものです。寝

ている被介助者の下に、横に移
動させやすい（ローラーがつい
ている）マットを敷き込み、そ
れを利用して、専用の敷布の上
に被介助者を移します。その専
用の敷布で被介助者を包み込み、
言葉は不適切かもしれませんが、
リフトで釣り上げ、そのリフト
のまま目的地へ移動させます。
そこでそのリフトを下ろし、敷
布を外して移動は終わりです。

文章で書くと、反って手間が
かかりそうですが、実際の先進
施設鈴が峰さんでは、慣れると
手での移動とそんなに変わらな
いと伺いました。

昨年一〇月にあった全国重症
心身障害日中活動支援協議会の
折に、広島県の重症心身障害児
者施設、鈴が峰さんを見学させ
ていただきました。

そこで、当施設の竹尾介護福
祉士が、被介助者の経験をしま
した。彼は、そもそも、抱きか
かえる、その人の温かさこそが
大切！と自分に訴えていた職員
で、その考えには自分も共鳴し
ていました。しかし、そのリフ
トを経験した彼は、「思ったより
安定しており、抱きかかえられ

るよりも安心感があった。今後
はリフトも十分移動の選択肢だ
」と感想を述べていました。

鈴が峰さんの話では、リフト
など、抱え上げない介護を完全
に導入してからは、腰痛での離
職者が激減したというお話を伺
いました。

当施設でも、抱え上げない介
護、リフトの導入は検討しなけ
ればならない時期に来ていると
思います。そのためには解決し
なければならぬ問題、例えば、
ベッドの周囲が狭く、今の状況
で、リフトを導入できるかなど
があります。

しかし、一番大切にすべきは、
利用者さんとそのご家族の気持ち
です。もし導入が決まれば、ご家
族にも体験会などを催して、ご理
解を深めたいと思っています。

これからの高齢化社会に向か
い、ますます看護や介護の人財
が不足することが予想されます。

これからも働きやすい職場へ
の改善を目指し、ひいては利用
者さんの幸福にもつなげていき
たいと考えます。



副施設長



一粒の麦

牧山 美鶴江

「一粒の麦は地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。」

他の人の為に尽くす精神の尊さを説いたイエス・キリストの御言葉です。

私の所属する日本カトリック看護協会（JCNNA）の創設者であり、ハンセン病患者に生涯を捧げ一九八九年に九十一歳で天命を全うされた井深八重の人生を通して人に仕える事（仕事）の尊さを学びたいと思います。

昨年の初冠雪を耳にした直後の十月二十七・二十八と富士山の麓、御殿場でJCNNAの全国大会が有り、会場傍の神山復生病院の墓地に眠る井深さんの墓碑に自筆の文字で刻まれていたのがタイトルの言葉です。

ハンセン病（らい病）は、一九四三年のプロミン治療薬の発見によって、今でこそ克服された病ですが、太古の時代から世の中に沢山の患者がいて聖書の中でも、イエス・キリストの癒しの対象として、又、日本書記にも登場します。当時のらい病は不治の病とされ、感染力の強い遺伝性の病と言う誤った伝説が流布して、罹患すると家族は、ひた隠しにし、密かに死ぬのを待つか野垂れ死にするかでした。

明治から昭和にかけて、国の直属の十三の収容施設と宣教師により開設された熊本の待労院や御殿場の神山復生病院（二八八九年開設）等で、らい病患者を収



容していました。当時、長崎で英語教師をしていた二十二歳の八重は、らい病の疑いで入院してきました。旧会津藩の名家の井深家にとつての措置だったのでしょうか。八重は、此処で一生分の涙を流したと記しています。後に誤診で有る事が判明し、元の生活に戻る事も出来た八重が選んだ道は、らい病患者に捧げる人生こそ神の望みと自覚し一途に邁進して行きます。看護婦速成科で看護婦の資格を取得し、らい病患者に寄り添い、奉仕と献身の九十一年の生涯の中に、宝冠章勲五等やフローレンス・ナイチンゲール記章その他多くの国内外から証が八重の功績を物語っています。

しかし、八重が一番伝えたかった事は、真心から自己を犠牲にしてこの世で最も疎外され弱い立場に立たされた方に寄り添い仕える事。これこそが、一粒の麦で有ると。新年を迎えて私達一人ひとり、今日より明日と言葉かけ笑顔だけでも増やして行く心がけから本物のお仕事が変わると確信しています。

生活福祉課



楽しいお弁当と息子と私。時々主人。

保育士 後藤 祐子

私には七歳になる息子がいます。やっとできた赤ちゃんでした。子どもができたら、お洋服をいっぱい買ってあげよう。いろんなところに連れて行ってあげよう。など、主人といろんな夢を抱いていました。子どもが生まれて毎日幸せで、子どもってこんなにかわいいんだと、実感していました。

育児休暇も明け、託児所デビュー！夢だったお弁当生活が始まりました。前の日から、次の日のお弁当のデザインを考えます。季節行事に合わせたお弁当だったり、息子がはまったキャラクターのお弁当だったり、一時間かけてお弁当を作りました。そのかわり、主人と私の弁当は一〇分で作れます。夕方、お弁当のふたを開けて、きれいに食べてくれたり、お迎えに行くとき得意な顔で「ママ、お弁当箱見て」と言ってくれた時は、嬉しいものです。幼稚園や小学生になると、息子の希望通りのお弁当を作ります。

ある時、「時計のお弁当が良い」というので、チキンライスのおにぎりの上に、スライスチーズとこのりで時計の文字盤を作りました。三十分かかりました。息子はとっても喜びましたが、その文字盤、ペロッとかがして一秒で口の中へ。それでも喜んで顔をみたら、やっぱり嬉しかったです。今は、給食が主なので、お弁当を作る回数も減りましたが、違った形で息子と（主人と）の時間を楽しみたいです。



いまだに、「ママ、大好きして〜」など、ハグを求めてきます。（私のことをベイマックスかトトロかのように思っているのでしょうか。）でも、あと二三年もすれば、きつとけむたがったり、「ばばあー」なんか言ったりするかもしれないので、今はいっぱい、甘やかそうと思います。



看護課



新たな趣味？

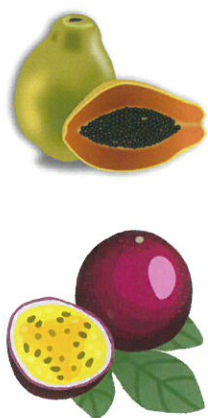
看護師 植田 貴浩

四十を過ぎ、趣味もお金がかかることがだんだんできなくなってくるな、と考えていた六月のはじめ、ふとしたことから、近くのホームセンターで、パイヤの苗木を見つけた。一本二百円と時期外れのためなのか三十パーセントオフとお手頃な値段のため購入。ついでに、暑さ対策用にと思い緑のカーテンになるパッションフルーツの苗二本とプランターも同時購入。何の知識もないままこの二種類の苗木を栽培し始めました。

パッションフルーツは、プランターにきちんと植えてネットを張り、一日二度の水やりを行うと順調に育ち、八月くらいには見事に緑のカーテンになりました。実も十個ほどなり、熟してから食べたのですが、やはり肥料が少なかったのか、若干酸味が強く、子供からは、不評でした。ジャムなどにするとよかったかなと…。

十月頃、来年用にと、伸びたパッションフルーツを剪定し、挿し木にしたところ、すべて根が出て、立派な鉢植えにできるほどになり、今では、室内の観葉植物と一緒に越冬しています。

一方のパイヤの苗木は、植える場所に迷ったあげく、庭先に取りあえず植えましたが、ほぼ放置状態で、気が付いた時に水をあげる程度の扱いでした。パイヤは沖縄で民家の庭先に植えてあるのを見たことがありますが、大分県の庭先にパイヤの木が植えてあるのは見たことがなく、つま



く育つかわかりませんでした。一〇センチ程度の苗木は、一か月ほどで、一メートルくらいに成長。その後順調に成長し、今では、二メートル越えの見事な木になり、実も八個ほどなりました。一つ青い果実を収穫し、スライスにして食べてみたのですが…。固い…、苦い…と、生でも食べられたものでないため、千切りにし、肉と野菜炒めにしたところ、これならうまい。味としては、少しシャキシャキしたジャガイモのような感じでした。後で調べてみると、青パイヤは、生で食べるときは、水にさらしあく抜きをしないと、まずいとの事…。食べる前に調べておけばよかったと後悔…。

新たな趣味になっているのかわかりませんが、二メートル超えのパイヤは当然家の中に入りきれず、今でも自分のうちの庭先に植わっていて放置状態。暖冬なら、何もせずに越冬できるはずと思っています。

ちなみに、パイヤやバナナは木ではなく草の仲間らしいです。パッションフルーツは、緑のカーテンにするには虫も尽かないし、手入れが簡単なのでお勧めです。

地域連携室



台風18号

児童指導員 松山 修一

昨年九月十七日、台風十八号が大分県を襲い、臼杵市、津久見市、佐伯市には災害ボランティアセンター（ボラセン）が間もなく設置され、多くの方々が支援に入って下さいました。私も二日間、津久見市に入りましたが、市内の道路はどこも土色で、ダンプが走り、生活用品が並べられた光景は、津波に襲われた後のようでした。

活動内容はボラセンで紹介され、私は個人宅の泥のかき出しや家財道具の整理を行いました。ご家族にご挨拶すると「すみません」と涙を流しながら一人ひとりに声をかけられ、「お互いさまですから」と答えるのがやっとなりました。床下に潜り、泥を出したり、ご家族に確認しながら廃棄する物を整理していきました。東京から参加した方は古い家の構造に知識があり、水掃除で土壁等を傷めずに済みました。

他市が活動を終える中、津久見市のボラセンは十一月十九日まで開設されました。実は運営に当たる社会福祉協議会も被害を受け、職員は当初、夜遅くまで働いたと聞きます。日常の福祉の相談業務等に災害支援も加わり、本当に大変な時期だったと思います。県南やその他の社会福祉協議会の皆さまのご苦労を思うとともに、被害を受けられた方が一日も早く日常を取り戻せますようお祈りしております。



写真の掲載については FB 津久見市災害ボランティアさまに許可をいただきました

**第43回日本重症心身障害学会学術集会
9月29日(金) から9月30日(土)**

宮城県仙台市の仙台国際センターで開催され、当施設からは「日中活動・生活支援・QOL」と「家族支援」「リハビリテーション」の各セクションから3演題を発表させていただきました。参加した職員からは、「質問や相談に応じられた」「日頃の取り組みをどう発展させれば研究になるかを学べた」といった感想が聴かれ、専門性の向上につながる有意義な研修になりました。



**第21回全国重症心身障害日中活動支援協議会
10月19日(木) から10月20日(金)**

重症心身障がい児・者の日中活動支援を行う全国の社会福祉施設等が取り組みの報告や話し合い等を通して地域で過ごされている重症心身障がい児・者により良い福祉の貢献ができることを目的とした協議会で、当施設からは管理栄養士が「在宅の生活介護利用者ご家族を対象に行ったソフト食を含めた食形態の紹介と調理実習」を管理栄養士から報告させていただきました。



檜の実少年少女合唱団公演 10月15日(日)

地域交流ホームで開かれ、恵の聖母の家の入所利用者のご家族、そして潔き聖母の家の関係者がたくさんつめかけ、美しくやさしい合唱を楽しみました。小さい子から時に大学生までの合唱団は兄弟姉妹のような温かさがあふれ、凛とした踊りや手話も含んだ合唱は見る者、聴く者を魅了して、感動的な公演となりました。9月17日に発生した台風18号は津久見市を襲い、被害を受けた団員も多かったようですが、「どんなに苦しいことがあっても明日に向かって一歩一歩進んでいきたい」と、心を込めて歌って下さいました。



11月9日(木) スイーツバイキング

午後のひと時を自分で選んだスイーツで楽しむ、スイーツバイキングが開かれました。ホールにはテーブルやメニュー表等が用意されてこの日限りの「Happy-Cafe」がオープンです。スイーツも色々な種類が用意されて、入所利用の皆さまも自分で選んで午後のひと時を楽しまれました。中でもカフェ中央でこんがり焼いたホットケーキは、香りもよくて、皆の注目の的でした。



ふれあい交流会 8月1日(火)

恵の聖母の家あゆみの広場で、支援学校の先生方による「ふれあい交流会」が開かれました。お神輿の登場で始まって、「恋ダンス」では音楽に合わせて身体を動かしました。プログラムの中には空手の演武もあって、武道の緊張感に触れたり、また歌やフルートによる演奏では、A Whole New World ♪、You Raise Me Up ♪、花は咲く ♪、そして最後はみんなで散歩を歌って終わりました。夏休みということもあって、久々に担任の先生に再会した訪問教室の生徒はとても喜んでいました。楽しい時間をありがとうございました。



うすき まちなか アート! 9月2日(土) から9月24日(日)

臼杵市交流観光プラザや市内商店街(35店舗)を中心に、障がいのある方のアート作品を展示する「うすきまちなかアート」が開かれ、恵の聖母の家からも何点か出展しました。入所利用者も出展や会場に足を運び、いろいろな刺激を受けたようでした。



家族の日ファミリーフェスティバル 9月9日(土)

入所利用者や在宅利用者の方々、地域の方々、恵の聖母の家の関係者で文化的交流を図って親睦を深める、「家族の日ファミリーフェスティバル」が地域交流ホームで開かれました。演歌ピクスの先生による「キヨシのズンドコ節」「マツケンサンバ」の曲で会場はとても盛り上がりました。また、スコープ三味線の皆さまは、太鼓の演奏と新曲「オージー自慢のオリオンビール」を披露して下さいました。会場では綿菓子や野菜、入所利用者の絵画をおさめたカードの販売、そしてバルーンアート他、入所利用者や在宅利用者の歌の発表もあり、とても賑やかなフェスティバルとなりました。手伝って下さったボランティアの皆さま、ありがとうございました。



第22回ときめき作品展 9月29日(金) から10月3日(火) まで

大分県障害者社会参加推進協議会主催の障がいのある人による芸術展「ときめき作品展」が大分市iiichikoアトリウムプラザで開かれました。当施設の入所利用の皆さまも絵画、工芸、写真等の部分で出展し、今後の制作活動に活かそうと、会場にも足を運んで来ました。今後の制作意欲に良い刺激となったようでした。



10月17日(火) 施設内活動 参加者6名

施設外療育への参加が難しい人を中心に、あゆみの広場のホールで活動を行いました。今回は香りや視覚で楽しめるものということで、デコパージュ石鹸と万華鏡を作りました。石鹸作りではアロマを参加者に選んでもらいました。香りに対して、匂いを確認している人や手で払いのける人、何の香りか考えている人と、皆さん、香りに刺激を受けたようです。訪問教室の生徒も先生と参加ができて、電子レンジを使う作業では、先生と一緒にボタンを押して楽しんでいました。皆と一緒にいることが嬉しい人、また石鹸作りは手を使っている作業になるので、家族で参加となった方は、お母さんが参加者の手を握る等、親子の関わりの時間にもなったようです。優しい香りに包まれて、楽しい時間になりました。完成した石鹸はホールに展示して、皆さんにみてもらいました。



10月19日(木) パークプレイス大分 参加者6名

出発の車内ではいつもよりもたくさん話をして、嬉しそうにしている人、外の景色を指でさして支援者との会話を楽しむ人など、皆さん楽しみに出発しました。皆さん、事前に決めていたり、リストをもとにして買い物をしました。家族で参加した人は、家族から買うかどうか聞かれるときちゃんと答えて、商品にも自分から手を伸ばして、意欲的な様子もみせていました。一方で、買い物よりもエレベーターに関心があって、スイッチを楽しんでいる人もいました。食事では、メニューの種類を控えて、デザートを楽しむ人や、サインや指さして食べたいものを支援者に伝えて、思い思いの食事ができたようです。館内の移動では入所利用者が日頃と違う一面もみせていて、一緒に参加した担当訓練士も車椅子の操作等が確認できて良かったようです。それぞれに有意義な一日になりました。



10月26日(木) マルショク臼杵 参加者2名

今年度の施設外療育に参加できなかった人を対象に活動を行いました。参加者の一人は周囲によく目を向けていて、特にヘアアクセサリーといったキラキラするものに関心があるようでした。また商品を示された時、顔をしかめる形で、表情で気に召さないものを教えてくれる人もいました。次年度は予定していた活動に元気に参加できますように。



関係者の皆さま、ありがとうございました。

9月21日(木) マルショク臼杵 参加者5名

お天気は曇りで、朝早くから起きていたため、車内でどうとしている人もいましたが、お店に入ると館内のアナウンスや音楽にじっと聞き入っている様子で、いつもと違う雰囲気を感じている人、逆に店員さんに手を振ったりして楽しんでいる人もいました。買い物では、支援者が本人に商品をみせたり、手やほほで触ってもらったりしながら、その表情や仕草から好みのものを探していきました。主に日常生活で使用するもの(シャンプーや衣類)を購入しています。支援者が買う手順を説明すると安心につながる人もいました。お菓子売り場では自分から手を伸ばして、関心のあるものを教えてくれる人もいました。地域のスーパーだったので、身近な人との再会もあって、楽しい時間になりました。



9月28日(木) パークプレイス大分 参加者5名

行きの車内では、嬉しくてたまらないといった感じで頭に手を当てたり、嬉しそうな声を出したりで、楽しみな様子うかがえました。現地では、CDショップや館内の音楽に右手を振ったり、身体を揺らしたりしながら楽しんだり、照明等の明るい光を目で追ったり、にこっと笑顔を見せて過ごしていました。本屋さんでは音の出る本に笑顔を見せたり、家族と一緒にたこ焼きやスイートポテト等の食事を楽しみました。お天気もよく、少し風もあって過ごしやすく、館内の装飾でハロウィンの雰囲気も味わえて、楽しい一日になりました。



10月12日(木) しまむら 参加者3名

市内の服屋さんで買い物にいきました。お天気もよく、ドライブが好きな人は車内でとても興奮していました。車内で緊張していた人もお店に入ると笑顔が出て、商品を選ぶ時は指をさして選ぶことができていました。また関心があるものにずっと目を向けている人もいて、支援者がクッションを取ってくると、手にして満足そうにしている人もいました。家族で買い物をする人もいて、お天気もよく、楽しい時間になりました。





児童発達支援センターめぐみ

最近のどきどき

◆八月

二十一日 夏のボランティア公演

華丘流八泳の会（五名）の方々による日本舞踊の催し物が行なわれました。題目として、①大勝負 ②花笠道中 ③演歌みち ④淡雪の橋 ⑤皆の衆五つ踊りの踊りが披露され、生活介護の利用者に加え、夏休み期間中の放課後等デイサービスの利用者の参加もあり、日頃目にする事のない日本舞踊を間近で体感し、会場も和やかな雰囲気になりました。

華丘流八泳の皆様

さま、お忙しいところお越しいただきありがとうございました。皆さまの今後の更なるご活躍をお祈りしています。



◆九月

九日 家族の日

「ファミリーフェスティバル」

演歌、ピクス、スコップ三味線、のど自慢大会と会といった内容で構成されました。参加された生活介護の利用者も曲に合わせて一緒に身体を動かしたり、スコップから奏でる音に耳を傾けていました。

そして、メインとなったのど自慢大会では各棟の出し物に対抗して児童発達支援センターめぐみも出場しました。今回は「パーフェクトビューマン」の曲に合わせて、ダンス

と歌を織り交ぜ披露することで、会場から手拍子や笑い声が聞かれていました。日頃の練習の成果を発揮した甲斐もあり見事「めぐみ賞」をいただくことができました。



◆十月

四日 戸外散歩

草花にふれ、秋を感じることを目的として、ルルドの丘へ戸外散歩に出かけました。ルルドに上る途中に咲いている、いろいろな花や移り変わりゆく、四季の景色を肌で感じながら、利用者も気分転換できたようでした。

最後に綺麗

に咲いているコスモスの前で記念撮影をさせていただいたひと時を過ごせました。



十八日 ハロウィン仮装パーティー

毎年この時期になると恒例になりつつあるハロウィン仮装を行いました。今回はハロウィンの衣装グッズを購入し、今まで以上にバラエティーに富んだキャラクターに変身しました。生活介護の利用者だけでなく、放課後等デイサービス、児童発達支援の利用者もたくさん写真を撮り、賑やかな時間となりました。

児童発達支援管理責任者 竹尾 昭彦



ピノキオ（左）とピーターパン（右）に变身☆



森の妖精（*ω*）

ひつじさん教室

床 心理課



臨床心理士 原 志織

発達外来には、部屋にそれぞれの部署をイメージした動物がいるのはご存知でしょうか。心理課はフワフワのひつじがモチーフになっています。そのひつじを名前にした、『ひつじさん教室』という取り組みをご紹介します。

『ひつじさん教室』は、小学校に入る前のお子さん五名ほどで活動する小集団グループです。保育園・幼稚園よりも少ない人数であるいは、普段とは違うお友達と、一年生になるための練習をしていきます。お友達と競い合ったり、悔しい思いをしたり、思う通りにならないこともありませんが、回を重ねるとにどんどんたくましくなっていきます。最初は不安で母さんから離れられなかった子が、自分の席に堂々と座れるようになりました。みんなの前で、お話しするのを恥ずかしがっていた子が、発表だけでなく、先生のお手伝い係も率先してやってくれるようになりました。

全五回の『ひつじさん教室』は、九月から始まり、この一月で卒業していきます。子ども達は「できたー」を積み重ねて、自信をもって一年生になっていく姿は、とても眩しく、私達も元気をもらえます。



営繕



楽しきツーリング

今村 和典

皆さんは休みの日、どのように過ごされていますか？またはどのようなことを趣味にされていますか？一つ、二つ、それ以上に趣味をお持ちの方もいると思います。私の場合は、後者になります。いくつか好きなことがあるのですが、その中の一つにバイクとツーリングがあります。バイクはホンダVTR二五〇。なぜ二五〇ccかという、車検がないからとカスタマイズが出来る点にあります。カスタマイズでは、レバーやミラーなどを交換しています。ネットを取り寄せて毎月少しずつ換えて、もう二十数か所になります。ちなみにミラー一つにしても、かなりの種類があります。ナビやETCを付けて…、そんなVTRに乗って、休みの日は職場の仲間数人であちこち走りに行っています。とはいっても、コースは他のメンバーにお任せです。走っている時、会話を楽しむことはできないのですが、風を感じる気持ち良さは何とも言えないものがあります。

昨年六月はフェリーを利用して愛媛県松山市に行ってきました。その時は朝六時過ぎに家を出て、佐賀関の港から八時発の国道九四フェリーに乗りました。九時十五分には三崎港に着いて、そこから通称「メロディライン」と言われるカーブの多い佐多岬から海沿いの道に入り、夕焼けの時に走ったらさぞ気持ちが良いだろうと思われる「夕焼け小焼けライン」を走りました。途中、映画寅さんのロケがあった下灘駅に

立ち寄り、またとてもきれいな砂浜がある道の駅ふたみに寄りました。そこに着いたのは昼前だったので、カップルでたくさんなのがとても印象的でした。その後、松山市内に入り、ひやしぶっかけうどんを食べて帰路につきました。夏の始まりの時期のひやしうどんはとても美味しく感じました。

家に到着したのは十八時四十五分。お天気にも恵まれ、コースも良く、最高の気分でした。燃費もリッター三十のバイクなので、お財布にも優しい旅となりました。その後、十月にメンバーで南阿蘇を廻る計画があったのですが、雨のためにツーリングは中止となりました。いつか行ってみようという計画を立てているところです。

ところで四国は自転車天国ということですが、皆さんはご存知ですか？道が自転車で整備されていて、とても走りやすいロードになっています。機会があればぜひ自転車で走ってみて欲しいと思います。



訓練課



三姉妹

言語聴覚士 加藤 綾乃

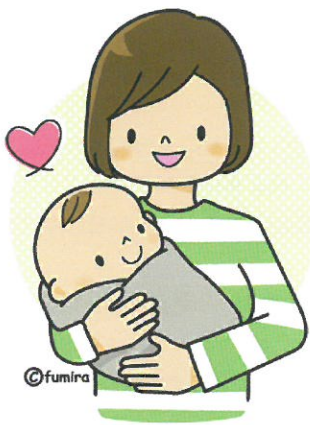
恵の聖母の家に入社して、早くも半年が過ぎました。仕事にも慣れてきて、少しずつ自分の中で落ち着いてきた頃にルルドの丘の原稿をお願いされました。どんなことを書いたらいいのか先輩方に尋ねると、自分のことでも何でもいいよとのことだったので、少し私のことを書いていこうと思います。

私の家は五人家族です。そして私は、三人姉妹の長女です。長女と聞くとしっかり者のイメージがありますが、そんなことはありません。姉妹の中で一番抜けていると親からは言われます。

私たち姉妹の中で一番しっかりしているのは、二番目の妹ではないかと思っています。三番目の妹は、高校でソフトボールを頑張っています。そんな三姉妹なのですが、昨年大きな出来事がありました。それは、二番目の妹がお母さんになったことです。正直、先を越された思いもありますが…、赤ちゃんも元気に生まれ妹も無事でよかったです。週末は、妹と甥っ子が帰ってくるのですが、初めのうちはどうしたら良いか悩んでいた妹が、時間が経つにつれてより母親らしくなっていく姿を見ると、すごいなと感心すると同時に私も頑張らないといけないなという気持ちになります。また、かわいい甥っ子と遊ぶと疲れなんて吹っ飛びぐらいに癒されます。たまに「おばちゃん」と言われると少しムツとしてしまうこともあります。甥っ子のできるこ

とが増えていくたびに、こんなに早くできるようになるのだと日々の成長に驚かされています。

こんな甥っ子にデレデレしている私ですが、妹たちに負けないようこれからも自分ができることを精一杯頑張っていこうと思います。そしていづれは私にも自分の家庭が築けたらいいなと思います。





保護者の皆様から



これまでとこれから…

次男は恵の聖母の家に20歳頃入ったので、かれこれ22、3年になります。小さい頃は元気で、野球をする活発な子でした。4つ違いの長男は、中学校で野球部、次男は中学に入るとバレー部に入る等、スポーツ好きの子どもたちでした。次男が小学校の頃、中学に通っている長男にけいれんが起き、その後、医療施設に入所となりました。当時、長男は帰省を楽しみにしていて、家に戻るといろんな話をしてくれました。

次男は中学2年生になった頃に激しいけいれんが起きました。このけいれんで歩行が難しくなったので、病院で診察してもらったと長男と同じ病気であると言われました。病院の先生は次男のデータを検査できる機関に送ってくれて、手術は難しいということがわかりました。私たち夫婦は長男と同じようにならないように、いろんな病院に治療法を聞いたり、お寺等にお参りに行ったりしました。

その後、次男は学校を養護学校（現支援学校）にかえて学校生活を送り、卒業後は作業所に通いました。そこは送迎もあって、箱折りやシイタケを詰める作業がありました。真面目に作業をしていたようで、お給料も数千円出たので、収入があるとびっくりしたことを覚えています。作業所に通っていた18歳の頃、けいれんが激しくなり、病院に行って人工呼吸器を2週間つける状態になり、会話ができなくなりました。状態が落ち着いた頃に恵の

聖母の家の紹介が医師からありました。

恵の聖母の家の印象ですが、そういうところがあるとは全く知りませんでした。キリスト教の施設と聞いて、家で家族と過ごす時間を大切にしていたので、そこに行ったら外出はできるのかなと夫と心配していました。恵の聖母の家に行ってみると、きれいな所だなと、そういう印象を持ちました。入所の時には先生から「帰省できますよ」と説明があり、ほっとしたのを覚えています。夫が元気な時は毎週のようによく家に連れて帰りました。父親に似て身体が大きい次男は、帰省の時も大きなワンボックスの車で帰りました。家に帰ったら、みんなが見えるところにベッドを用意して、そこで過ごしてもらいました。お風呂の時間がこれまた大変で、当時は電動のお風呂とかなかったので、初めに主人が浴槽に入り身体を支えたり、洗う時は私と私の妹が身体をこするというやり方で行っていました。他にも私の兄弟が手伝ってくれたので、帰省はみんなが支えてくれるものでもありました。吸引器も買って吸引したりと、大変ではありましたが、家族でほっとする時間を過ごすことができました。

次男をお風呂で支えていた主人は10年以上前に亡くなりました。今は毎週でなく、お盆とお正月の帰省を楽しみにしています。主人は上下関係や人との関わりを大事にする人でした。そういった面からか、めぐみ会の役員も積極的に受けて、相談にも乗っていたようです。祖父は次男が楽しめるようにと、面会時は女性人形を必ず次男の枕元に置き、私は「せめて着る物で親としての思いを伝えたいな」と思って、衣類を選んで買っています。私自身も歳をとり、何があるかわからないので、年に一度の個別面談には私の妹にも同席してもらっています。みんなで次男の生活を大事に考えているところです。これからも元気に過ごしてほしいと思っていますのでよろしくお願いします。

ー 母親より

支援学校訪問教室



連携を深めて…

大分県立臼杵支援学校 藤富 絵美里

わたしは今年度、恵の聖母の家から学校に通学している生徒の担任をしています。担当の生徒は、視覚障がいがあり、人や場所、状況の把握が難しい子どもさんです。私自身、視覚障がいのある生徒を担当した経験がなかったため、実態把握の方法や目標設定、指導・支援の方向性に悩んでいました。そこで、大分県立盲学校の巡回相談を依頼したり、教育センター主催の研修に参加したり

することで、知識を深め、指導・支援の参考にしていきました。

また、恵の聖母の家の方々と連絡帳や施設訪問、PTAの懇談会等を通して、学校での取り組みをお伝えしたり、園での生活の様子をお聞きしたりしながら、支援方法を共通理解できるよう、連携を深めていきました。

年度当初は、食事を拒むことがあったり、集団活動に参加することが難しかったりと、新しい環境に不安を感じている様子でした。しかし最近では、学校生活にも慣れ、1日の流れや教室の場所を覚えることで、落ち着いて過ごすことができるようになりました。また、日々の授業や学校行事を通して、学部の友だちとの関わりを深めています。

恵の聖母の家の職員の方々には、日頃より生徒の指導・支援にあたり、あたたかいご支援とご協力をいただいております。これからも、生徒が充実した学校生活を送れるよう、連携を深めていきたいと思っております。



さあ、愛の行いをしにいきましょう。

尊者マルゲリタ・オッキエナ

きらりん

ハロウィンとスイーツバイキング

ランチバイキングを始めて7年になりました。毎年担当が工夫を凝らして各病棟ごとに企画し、今回は3病棟合同で行うことになりました。

まずは10月26日に経口摂取以外の方を中心にハロウィンをモチーフにした万華鏡とデコパージュ石鹸を制作しました。思い思いにハロウィンの仮装をして賑やかな雰囲気の中で秋の季節を感じてもらいました。万華鏡を作成した方はキラキラと目の前で動く色とりどりの飾りを見て楽しんでいました。デコパージュ石鹸作りの方は石鹸に貼る紙を選んだり、石鹸の香りを感じて不思議そうな表情を見せてくれました。今回はハロウィンやめぐみんのパネルで写真撮影も行いました。ご家族や支援学校の先生方も一緒に参加してくださり楽しいひとときを過ごすことができました。

11月9日にはカフェの雰囲気でスイーツバイキングを行いました。多数のメニューから自分で食べたいスイーツを選び、ご家族や支援者と一緒に楽しい時間を過ごすことを目的に行いました。栄養課の方が目の前でホットケーキを焼いて、甘い香りの中で出来上がる過程を大きなスクリーンで見ることができました。スイーツのメニューは、ネイチャークラブが収穫したさつま芋で作ったスイートポテト、杏仁豆腐、ようかん、プチシューです。またティラミス、イチゴのケーキ等、ひと口大のケーキの中から好きなものを選んでもらって、入所利用者も色々な味が楽しめてとても喜んでいました。いつにない笑顔やおいしそうなお表情を見ることが出来て支援者も嬉しくなりました。入所利用の方と日頃体験することのできない空間を味わいながら共有することができたと思います。

今回のバイキングはご家族、支援学校の先生方、訓練課そして栄養課の協力で無事に終わることが出来ました。ありがとうございました。

今年のバイキングもお楽しみに！

生活福祉課 保育士 加藤 昭子



たくさんのスイーツが並びました

(※スイーツバイキングについては7頁でも紹介しております)

行事予定

※青色…施設外療育 ◎…ケースカンファレンス ㊦…個別面談
㊧…権利擁護・虐待防止部会 ㊨…全体朝礼 ㊩…労働安全衛生委員会
㊪…リスクマネジメント部会 ㊫…入浴日

2018年1月			2月			3月			4月(計画)		
1	月	正月行事	1	木	行事委員会	1	木		1	日	
2	火	正月行事	2	金	㊫	2	金	㊫	2	月	㊫
3	水	㊫	3	土	節分	3	土	雛祭	3	火	㊨
4	木		4	日		4	日		4	水	㊧ ㊫
5	金	㊫	5	月	㊫	5	月	㊫	5	木	
6	土		6	火	㊨	6	火	㊨	6	金	㊫
7	日		7	水	㊧ ㊫	7	水	㊧ ㊫	7	土	
8	月		8	木		8	木		8	日	
9	火	㊨ ㊫	9	金	㊫	9	金	㊫	9	月	㊫
10	水	㊧	10	土		10	土		10	火	◎
11	木		11	日		11	日		11	水	㊩ ㊫
12	金	㊫	12	月		12	月	㊫	12	木	
13	土		13	火	◎ ㊫	13	火	◎	13	金	㊫
14	日		14	水	㊩	14	水	㊩ ㊫	14	土	
15	月	㊫	15	木	㊪	15	木	㊪	15	日	
16	火	◎	16	金	㊫	16	金	㊫	16	月	㊫
17	水	㊩ ㊫	17	土		17	土		17	火	◎
18	木	㊪	18	日		18	日		18	水	㊫
19	金	㊫	19	月	㊫	19	月	㊫	19	木	㊪
20	土		20	火	◎	20	火	◎	20	金	㊫
21	日		21	水	㊫	21	水		21	土	
22	月	㊫	22	木		22	木		22	日	
23	火	◎ ㊦	23	金	㊫	23	金	㊫	23	月	㊫
24	水	㊫	24	土		24	土		24	火	◎ ㊦
25	木		25	日		25	日		25	水	㊫
26	金	㊫	26	月	㊫	26	月	㊫	26	木	
27	土		27	火	◎ ㊦	27	火	◎ ㊦	27	金	㊫
28	日		28	水	㊫	28	水	㊫	28	土	
29	月	㊫				29	木		29	日	
30	火	◎				30	金	㊫	30	月	㊫
31	水	㊫				31	土				

※4月以降の予定は仮のものです。予定変更の場合があります。 ※関係者の同意のもと、写真を掲載しております。

編集後記

年が明けました。今年は戌年です。犬は忠実であることから、戌年に当たる人は「勤勉」「忠実」ということだそうです。また、物事が更に倍になっていく年とも言われています。戌年の方を見習いながら、勤勉に努め、社会に忠実に従い、幸せが倍増する年になりますように。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。(S.M)